

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
補益剤 補気剤 4		
ほちゅうえつきとう 補中益気湯	補中益気・昇陽挙陷・甘温除大熱	黄耆 15～30g・炙甘草 6g・人参 9g・当帰 9g・陳皮 6g・升麻 3g・柴胡 3g・白朮 9g 水煎し服用する。丸剤にし1日2～3回9～15gずつ湯で服用してもよい。
脾胃論	<p><主治></p> <p>気虚下陷 元気がない、疲れやすい、動くとき息切れする、四肢がだるく無力、ものを言うのがおっくう、立ちくらみ、頭痛、めまい、下腹部の下墜感、脱肛、子宮下垂、慢性の下痢、尿失禁、排尿困難、不正性器出血、皮下出血、舌質は淡、脈は沈細で無力などを呈す。</p> <p>気虚発熱 発熱、身体の熱感、自汗、悪風、頭痛、口渇があり熱い飲み物を欲する、ものを言うのがおっくうである、息切れ、元気がない、脈は浮大で無力、舌質は淡など。</p> <p><病機></p> <p>脾気が虚して気機が宣発できずに下陷し、昇挙と固摂が無力になった状態である。</p> <p>脾虚で気血生化の源が不足し、全身、四肢が養われないために、元気がない、疲れやすい、四肢がだるく無力、舌質が淡、脈が沈細で無力などがみられる。陽気が清竅を上榮できないので立ちくらみ、めまい、頭痛が間欠的に生じ、疲労時や午前中に増強する。津液が上昇しないために口渇がみられるが、内熱傷津によるものではないので熱い飲み物を欲する。気虚で肺気が不足すると、動くとき息切れし物を言うのがおっくうになる。気機の下陷で水穀の精微が下流すると湿濁に変じ、慢性の下痢、尿失禁などが生じる。気虚下陷で臓器の固摂ができないと、脱肛、子宮下垂、下腹部の下墜感、排尿困難などが現われる。気不摂血になると、慢性的に回復する不正性器出血、皮下出血、血便、血尿など出血傾向が出現する。</p> <p>このほか、気虚下陷で陽気が内に鬱して化熱すると、身体の熱感、発熱が現われるが、陽気が回復し外達できるときには消失するので、発熱は間欠的であり疲労時などによく発生する。衛気の不足により悪風、自汗もみられるが、着衣や温暖により緩解し、外感表証の悪風寒とは異なる。また、脈は浮大であるが無力であり、舌質も淡を呈し、外感表証とは違っている。</p> <p><方意></p> <p>補気すると共に陽気を昇発挙上する。</p> <p>主薬は、益気、昇発陽気の黄耆であり、補肺気、実衛にも働き、大量に用いている。人参・白朮・炙甘草は健脾益気に働いて黄耆を補助しており、和気醒脾の陳皮を加えることにより膩滞の弊害がない。柴胡は肝気の疏達、昇発を強め、升麻は脾陽を昇挙し、いずれも黄耆の昇発を補助する。当帰は補血によって益気を強め、さらに柔肝により肝気の昇発を高め、間接的に他薬の効能を補佐する。</p> <p>なお、本方（補中益気湯）は甘温益気の黄耆・白朮・炙甘草を主体にして昇陽益気し、陽気内鬱による発熱を除去するところから「甘温除大熱」と称される。</p> <p><参考></p> <p>加減法</p> <p>脱肛、子宮脱などには、黄耆・升麻を増量し、枳殻・枳実・益母草などを加えると効果が強くなる。</p> <p>出血がつよい場合には、艾葉・藕節などの止血薬を配合する。</p> <p>気虚の発熱には、柴胡を増量し黄芩・葛根を加える。</p> <p>感冒による発熱であることが明らかなら、紫蘇葉・桂枝を配合する。</p> <p>頭痛には蔓荊子・川芎などを、便秘には麻子仁・大黃などを加える。</p> <p>日本での保険適応効能、効果</p> <p>消化機能が衰え、四肢倦怠感著しい虚弱体質者の次の諸症；夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、胃下垂、感冒、痔、脱肛、子宮下垂、陰萎、半身不随、多汗症</p>	
かげんほちゅうえつきとう 加減補中益気湯	補気安胎・昇陽挙陷	黄耆 15g・人参 9g・白朮 9g・陳皮 6g・炙甘草・柴胡・升麻各 3g・阿膠 6g・艾葉 6g (補中益気湯 - 当帰 + (阿膠・艾葉)) に相当する。 水煎し服用する。
脾胃論	<p>主治は、気虚下陷、胎動不安で、妊娠4～5ヶ月の虚弱者が腰がだるい、下腹部下墜感、腹痛、性器出血などを呈するもの。</p> <p>気虚下陷で胎を約束できなくなり切迫流産をきたした状態に対し、補中益気湯から辛温動血の当帰を除き、止血安胎の阿膠・艾葉を加えている。</p>	